

## H20. 2改

### 奥田 研爾 和文業績集（最近の原著、総説等）

1. <総説>井畑淳、渡部節子、奥田研爾：DNA ワクチン. 2006：日本臨床：64(10)：1865-1869
2. <総説>奥田研爾：鞭毛蛋白質と排泄機構蛋白質を用いたワクチン効果が高い. 2006：Medical Tribune：39(34)
3. 戸田すま子、渡部節子、松田智子、松田好雄、原口俊蔵、池田耕三、奥田研爾：各種微生物に対する二酸化塩素の殺菌・静菌の検討. 2006：環境感染：21(4)：231-235
4. 武下文彦、奥田研爾：DNA ワクチンの可能性. 2005：臨床と微生物：32：275-281
5. <総説>武下文彦：自然免疫活性化シグナル分子を利用した DNA ワクチン免疫原性増強法の開発. 2005：横浜医学：56：569-574
6. 工藤勝利、岡田栄一、溝口晋宏、斎藤秀典、デラフエンテ優子、松田智子、奥田研爾、水木信久：化粧品によるコンタクトレンズの着色. 2004：日本コンタクトレンズ学会誌：46：35-39
7. 高倉桃子、相原道子、忻克勤、奥田研爾、池澤善郎：NC/Nga マウスにおける皮疹の有無によるリンパ球サイトカイン産生の比較検討. 2004：日本皮膚科学会雑誌：114：(12)275-281
8. 奥田研爾、浜島健治、忻克勤、松井清彦、田嶋信義：アルツハイマー病に対する免疫療法の研究. 2004：平成 14 年度食肉に関する助成研究調査成果報告書：21：112-116
9. 小野慎也、斎藤秀典、溝口晋宏、吉田正雄、戸田すまこ、奥田研爾、岡田栄一：Multipurpose Solution の擦り洗いの回数および濯ぎの量の違いによる消毒効果の比較. 2003：日本コンタクトレンズ学会誌：45：193-197
10. <総説>奥田研爾、浜島健治、忻克勤、松井清彦、田嶋信義：アルツハイマー病に対する免疫療法の研究. 2003 平成 14 年度食肉に関する助成研究調査成果報告書：21：112-116
11. <総説>渡部節子、戸田すま子、奥田研爾：エイズワクチン開発の最新情報. 2001：Infection Control：10(1)：98-104
12. 宮田信之、小野慎也、亀澤比呂志、大石亜由美、大塚礼恵、岡田栄一、吉田正雄、高島豊、戸田すまこ、奥田研爾：ソフトコンタクトレンズに対するマルチパーパスソリューションの洗浄および消毒効果. 44：日本コンタクトレンズ学会誌：108-112
13. 小山昌恒、福島淳、川本進、浜島健治、忻克勤、奥田研爾：緑膿菌鞭毛抗原発現プラスミドの経鼻投与はマウスに特異的な感染防御免疫を誘導した. 2002：横浜医学：53：549-554
14. <総説>佐々木津、石井則久、奥田研爾：HIV 感染症に対する予防的ワクチン開発の現況と展望一. 2002：最新医学：57(9)86-93
15. <総説>奥田研爾、田嶋信義、渡邊重明、樫本和久：DNA ワクチン療法の開発. 2002：平成 13 年度食肉に関する助成研究調査成果報告書、財団法人伊藤記念財団：20：93-96
16. <総説>萩原恵里、奥田研爾：感染症に対する遺伝子治療臨床研究の現状. 2001：分子細胞治療：2(3)：15-20
17. <総説>萩原恵里、柳浩正、奥田研爾：DNA 発現プラスミドの臨床医学への応用. 2001：臨床免疫：35(4)：466-472
18. <総説>浜島健治・奥田研爾：シリーズ：検証・20 世紀の生物化学 免疫学-細菌学から分子免疫学まで-. 2001：遺伝：55(3)：86-93

19. <総説>渡部節子、戸田すまこ、奥田研爾:エイズワクチン開発の最新情報. 2001: Infection Control:10(1):98-104
20. <著書>大沢利昭、小山次郎、奥田研爾、矢田純一編集:2001:免疫学辞典(改訂第2版)、全831頁、東京科学同人
21. 福島淳、根元民夫・森原和之・奥田研爾:最近における細胞間情報伝達と環境適応. 2000:日本細菌学会雑誌:55(1):37-43
22. 森原和之、畑安雄、奥田研爾:セラリシン型 Zn 金属プロテアーゼ-構造、機能、分泌様式、病原性-. 2000:生化学:72(1):16-25
23. 佐々木律、福島淳、奥田研爾:DNA ワクチンの現状と展望-感染症制圧のための新たなアプローチ-. 1998:日本細菌学会雑誌:53:407-424
24. 住友みどり、須田せつ子、新藤邦彦、福村基典、福島淳、奥田研爾、伊藤章:成人気管支喘息患者と慢性気道感染症患者における血清 Tumor Necrosis Factor Alpha 値および Soluble Tumor Necrosis Factor-Receptor I 値の検討. 1997:アレルギー:46:1136-1147
25. 渡部節子、大澤尚美、佐藤芳美、神永陽一郎、戸田すま子、奥田研爾:簡便な MRSA スクリーニングテストチューブの使用報告. 1997:日本環境感染症学会誌:12:199-205
26. 服部聡、菅野洋、円谷彰、山本勇男、奥田研爾、川本進:ウイルスベクターを用いた遺伝子治療. 1996:歯界展望:88:1373-1385
27. <総説>住友みどり、申田せつ子、進藤邦彦、福村基典、福島淳、奥田研爾、伊藤章:成人気管支喘息患者と慢性気道感染症患者における血清 Tumor Necrosis Factor Alpha 値および Soluble Tumor Necrosis Factor-Receptor I 値の検討. 1996:日本アレルギー学会雑誌
28. 川本進、服部聡、生地泉、岡本理英、福島淳、浜嶋健治、奥田研爾:神経細胞障害に重要な役割を担うグルタミン酸受容体の場急路ウイルスベクター形を用いた発現とその解析(第3報). 1995:横浜医学、46(6):714-718
29. <著書>奥田研爾、浜嶋健治、荒井一二、田所一郎共著:モダンナースシリーズ 8、1995、微生物学、培封館
30. <著書>福島淳、倉田成、尤志英、森原和之、奥田研爾:生体内で緑膿菌病因子の発現を制御する可能性のある菌体因子について. 1995:第29回緑膿菌感染症研究会講演記録:緑膿菌研究会:61-64
31. <総説>奥田研爾、杉田泰之、横田俊平、河西千秋、井上健、大西秀樹、高橋豊三、満田年宏、荒井一二、川本進、福島淳、忻克勤:PCR 法の微生物学への応用とその可能性. 1995:日本細菌学会誌:50:1039-1092
32. <総説>奥田研爾、渡辺節子:医学領域における殺菌剤とそれらの使用による問題点. 1994:機能材料:14:26-32
33. <総説>奥田研爾、福島淳:緑膿菌病因子の分子生物学最近の進歩. 1994:日本細菌学会雑誌:49:475-483
34. <総説>武川寛樹、奥田研爾:エイズワクチンの開発の現況. 1994:横浜顎顔口外誌:7(2):47-59
35. <著書>山川有子、杉田泰之、中島弘、山川正、中村聡、大野重昭、奥田研爾:ベーチェット病

- における TNF- $\alpha$  および HSP70 遺伝子の発現について. 1994:厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班平成 5 年度研究業績集:77-79
36. <著書>田中俊一、山川正、中村聡、大野重昭、山川有子、奥田研爾:Behcet 病患者の血清中 Tumor Necrosis Factor  $\alpha$  濃度. 1994:厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班平成 5 年度研究業績集:94-96
  37. <著書>中村聡、山川正、杉田美由紀、木島正哉、田中俊一、磯田芙美子、奥田研爾、大野重昭:マウス実験的自己免疫性網膜ぶどう膜炎における Tumor Necrosis Factor  $\alpha$  の関与. 1994:厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班平成 5 年度研究業績集:91-93
  38. 川本進、服部聡、奥田研爾:神経細胞障害に重要な役割を担うグルタミン酸受容体のバキュロウイルスベクター系を用いた発現とその解析(第 2 報). 1994:横浜医学:45(5):567-568
  39. 田中俊一、木村真理、山川正、杉山厚、関原久彦、佐々木哲夫、中島弘、磯田芙美子、奥田研爾:強皮症患者の血清中 TNF  $\alpha$  及び soluble TNF  $\alpha$  receptor (p55) の検討. 1994:横浜医学:45(5):549
  40. 山川正、田中俊一、杉山厚、井上修二、関原久彦、奥田研爾:敗血症致死率と老化の関係—TNF  $\alpha$  産生能を介して—. 1994:横浜医学:45(5):653-659
  41. 渡辺節子、井原育子、奥田研爾:ナースシューズの底に付着した MRSA の除菌方法の検討. 1994:日本環境感染症学会誌:9(3):44-48
  42. <著書>福島淳、石井利典、森原和之、奥田研爾:緑膿菌エラスターゼ遺伝子の発現調節機構の解析. 緑膿菌—その基礎と臨床—. 1993:緑膿菌感染研究会:66-72
  43. 川本進、服部聡、生地泉、楊少純、奥田研爾:神経細胞障害に重要な役割を担うグルタミン酸受容体のバキュロウイルスベクター系を用いた発現とその解析. 1993:横浜医学:44:246-247
  44. 山川有子、杉田泰之、高橋さなみ、高橋泰英、山川正、田中俊一、中村聡、福島淳、川本進、大野重昭、奥田研爾、中嶋弘:ベーチェット病における TNF- $\alpha$  および HSP70 の遺伝子発現について. 1993:横浜医学:44:663-668
  45. 山川有子、杉田泰之、高橋泰英、中村聡、大野重昭、山川正、田中俊一、高邑裕太郎、福島淳、川本進、奥田研爾、中嶋弘:ベーチェット病における TNF- $\alpha$  産生能について. 1993:横浜医学:44:215-221
  46. 戸田すま子、渡辺節子、山本匡子、小田切繁樹、奥田研爾:看護婦を主とした医療従事者の鼻腔内における MRSA の保菌常態について. 1993:環境感染
  47. 奥田研爾、山川正:エイズワクチンの開発について. 1993:臨床と微生物:120:55-62
  48. <総説>坂田茂樹、小川徹、田中俊一、奥田研爾、三浦清:ヒト TSH 受容体の抗原決定基及び生理活性発現部位の検討. 1991:内分泌学の進歩:9:74-77
  49. <総説>福島純、奥田研爾、瀬谷美子:緑膿菌金属プロテアーゼ. 1991:臨床検査:35:993-996
  50. 坂田茂樹、木全康良、宅野洋、前川博之、松田雅文、奥田研爾:合成ヒト thyroglobin(Tg)peptide を用いた Tg の抗原性の検討. 1991:日本内分泌学会雑誌:65(9):1071

51. 田中俊一、山川正、中村聡、大野重昭、奥田研爾: Behcet 病の諸症状における Tumor Necrosis Factor  $\alpha$  の関与の検討. 1991: 厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班平成 2 年度研究業績集: 80-81
52. 福島淳、奥田研爾: 緑膿菌の分子遺伝学的研究の動向—病原因子エラスターゼ, アルカリプロテアーゼを中心として—. 1991: 日本臨床: 49(10): 2220-2226
53. 稲見すま子、谷口直之、石橋一郎、長尾大、青木一郎、石井則久、田中俊一、山川正、奥田研爾、牛島廣治: 本邦 HIV ウイルス感染患者 23 例中の種々合成抗原決定基に対する血中抗体価の検討. 1991: エイズジャーナル: 3(2): 222-224
54. 大西秀樹、川本進、松下正明、奥田研爾: Baculovirus 発現系を使用した哺乳類  $\alpha$  1-adenergic receptor の発現とその解析. 1991: 医学のあゆみ: 158(11): 771-772
55. 青木一郎、奥田研爾: T 細胞レセプター. 1989: 臨床検査: 33: 948-949
56. 石井則久、奥田研爾: T 細胞レセプター V gene と MHC 拘束性. 1989: 臨床免疫: 21(1): 9-15
57. 青木一郎、大谷方子、宮城洋平、三杉和章、奥田研爾: シクロスポリン投与マウスにおけるアロ抗原特異的抑制性 T 細胞の検出. 1988: 今日の移植: 1(2): 175-176
58. <総説>石ヶ坪良明、奥田研爾:  $\gamma \delta$  TcR<sup>+</sup> 樹上細胞. 1988: 免疫と血清: 10(3): 25-28
59. 浜島健治、川井孝子、福島淳、奥田研爾、外来異種遺伝子導入マウス (Transgenic mouse) の作製法. 1987: 横浜医学: 38(1): 117-123
60. 石井則久、中嶋弘、青木一郎、奥田研爾: マウス皮膚移植における抑制性 T 細胞の役割. 1987: Proc.Jap.Soc.Immunol.: 17: 783
61. 奥田恭子、石井則久、浜島健治、川井孝子、熱海祐策、谷賢治、奥田研爾、大久保隆男: マウス受精卵を使用しての Immune tolerance の検討. 1987: 移植: 22: 299-301
62. 青木一郎、宮城洋平、大谷方子、齊藤和代、石井則久、高橋豊三、奥田研爾、三杉和章: ミクロスポリン A のアロ抗原特異的免疫応答に対する効果の検討. 1987: Proc.Jap.Soc.Immunol.: 17: 633
63. <著書>高橋豊三、満田年宏、奥田研爾: トランスサイトーシス. 1987: 生体の科学: 28: 161-164
64. <著書>高橋豊三、重松貴、満田年宏、奥田研爾: トランス・スプライシング. 1987: 生体の科学: 37: 609-611
65. 石井則久、奥田研爾: 微生物に対するモノクローナル抗体のスクリーニング. 1986: 生体防御 3(2): 345-347
66. 奥田研爾: Use of animal cells for biological products. 1986: 感染・炎症・免疫・16(3): 48-53
67. <著書>緒方一博、大久保恵理、奥田研爾: T 細胞レセプターの構造. 1985: 臨床医: 11(5): 112-114
68. 石井則久、永井隆吉、青木一郎、奥田研爾: 卵白リゾチーム抗原に反応する増殖性 T 細胞の遺伝子学的検討. 1985: 日本皮膚科学会雑誌 95(4): 431-436
69. 青木一郎、加藤清、高橋豊三、奥田研爾: DTH 発現における遺伝的拘束. 1985: 臨床免疫 17(2): 178-185
70. 奥田研爾: IV 免疫グロブリン組織適合抗原. 1985: 最新医学教育講座 No.4101: 43-63

71. 青木一郎、高橋豊三、奥田研爾:T細胞レセプター. 1984:免疫と血液:6(4):413-416
72. 石井則久、青木一郎、相原雄幸、奥田研爾:卵白リゾチーム抗原特異的遅延型過敏反応のエフェクターハイブリドーマの性質について. 1984:日本皮膚科学学会誌:94(13):1531-1536
73. 石井則久、高橋豊三、奥田研爾:免疫応答の遺伝的制御における MHC の役割. 1984:臨床免疫 16(8):634-642
74. 高橋豊三、高橋直子、奥田研爾:ゲル作製が容易な垂直型電気泳動装置. 1984:臨床検査:28(6):710-711
75. 石井則久、奥田研爾:T細胞による抗原認識機構—determinants selection model と clonal deletion model. 1984:医学のあゆみ:129(10):670-676
76. 佐分利保雄、高橋明子、高橋豊三、奥田研爾:黄色ブドウ球菌の薬剤感受性の経時的变化. 1984:こども医療センター医学誌:13(2):67-71
77. <著書>石井則久、高橋豊三、奥田研爾:免疫系の遺伝支配. 1984:日本臨牀:43:55-61
78. 加藤清、横田俊平、奥田研爾:主要組織適合抗原系と免疫応答遺伝子. 1984:日本臨牀:42 春季臨時増刊号:382-389
79. <著書>横田俊平、奥田研爾:T細胞レセプターと主要組織適合抗原. 1984:臨床免疫:16 春季特別増刊号:16-20
80. 石井則久、奥田研爾:抑制性 T 細胞回路の解析—LDHB を用いた抑制性 T 細胞回路の細胞間相互作用—. 1984:蛋白質 核酸 酵素:29(7):523-532
81. <著書>高橋豊三、奥田研爾:ファージベクターによるクローニング I.ベクターの左右両腕の調整法. 1984:免疫実験操作法XⅢ:4483-4513
82. <著書>高橋豊三、石井則久、奥田研爾:ファージベクターによるクローニング II .Packaging Mixture の調整法. 1984:免疫実験操作法XⅢ:4515-4524
83. <著書>高橋豊三、奥田研爾:ファージベクターによるクローニング III.Ligation 反応と In Vitro Packaging. 1984:免疫実験操作法XⅢ:4525-4532
84. 奥田研爾、石井則久:T細胞による免疫の制御機構, ベーチェット病に関する研究. 1984:昭和 58 年度研究業績, 厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班編:21-24
85. 山田誠一、山田利津子、高橋豊三、奥田研爾:免疫されたマウスの放射線抵抗性脾臓細胞による細胞障害性 T 細胞抗原レセプターの親和性への影響. 1984:医学のあゆみ:128:231-233
86. <著書>高橋豊三、高橋直子、奥田研爾:簡単で安価なラットの固定法. 1984:臨床検査:28:548-549
87. <著書>高橋豊三、高橋直子、奥田研爾:フローティング・マイクロテストチューブラックとその台. 1984:臨床検査:28:1630-1631
88. 佐分利保雄、高橋明子、高橋豊三、奥田研爾:神奈川県立こども医療センターにおける黄色ブドウ球菌の化学療法剤耐性株の変遷. 1984:こども医療センター医学会雑誌:13:137-141
89. 奥田研爾、長岡章平、谷賢治、石ヶ坪良明、加藤清、松永敬一郎:(NZB×NZW)F<sub>1</sub> マウスの高齢化に伴う Ts<sub>3</sub> cell 群の異常. 1983:厚生省特定疾患自己免疫疾患調査研究班, 昭和 57 年度研究業績:151-154

90. 浜島健治、山田誠一、奥田研爾、田所一郎:いわゆる納豆菌 (*Bacillus subtilis*) の免疫調節能. 1983: 横浜医学: 34: 139-142
91. 石ヶ坪良明、浅田裕子、本村茂樹、坂木洋、高橋宏、伊藤章、神永洋一郎、奥田研爾: 静脈血培養にて、*Trichosporum cutaneum* が検出された非定型性白血病の一例. 1983: 感染症学会誌: 59: 970-974
92. 加藤清、石ヶ坪良明、大久保隆男、奥田研爾: 高齢 (NZB × NZW) F<sub>1</sub> マウスにおけるサプレッサー誘導活性の低下. 1983: 厚生省特定疾患自己免疫疾患調査研究班, 昭和 58 年度研究業績: 35-38
93. 長岡章平、加藤清、石ヶ坪良明、千場純、松永敬一郎、坂本洋、五十嵐俊久、谷賢治、伊藤章: マイコプラズマ肺炎により急性呼吸不全を呈した全身性皮膚硬化症の 1 例. 1983: 感染症学雑誌: 57(11): 986-990
94. 坂田茂樹、相原雄幸、奥田研爾、中村重徳、上久保啓太、小牧卓司、小嶋範子、樽谷修、三浦清: 抗甲状腺ホルモン抗体産生機序に関する研究 2 ヒト thyrogloblin を抗原としたマウスでの抗体産生の免疫応答遺伝子レベルでの制御. 1983: 日本内分泌学会雑誌: 59(11): 1729-1737
95. 長谷哲男、田中盛久、中嶋弘、永井隆吉、相原雄幸、加藤清、松永敬一郎、奥田研爾: 卵白リゾチーム (HEL) に対する免疫応答 I. HEL 特異的 T 細胞増殖に対するサプレッサー T 細胞の性格について. 1983: 日本皮膚科学学会誌: 93(10) 1059-1067
96. 奥田研爾: 主要組織適合抗原の遺伝子. 1983: 自然 9 月号: 68-78
97. 加藤清、奥田研爾: 遅延型アレルギーのエフェクター. 1983: 医学のあゆみ: 126(5): 343-348
98. 相原雄幸、奥田研爾: T 細胞レセプター遺伝子戦争. 1983: 医学のあゆみ 124(7): 694-695
99. 奥田研爾、水口純一郎、松橋直: 細胞融合法による monoclonal antibody. 1983: 日本細菌学雑誌 38 特別号: 65-67
100. 坂田茂樹、中村重徳、小嶋範子、奥山牧夫、三浦清、樽谷修、相原雄幸、奥田研爾: 抗甲状腺ホルモン抗体産生機序に関する研究 1 ヒト thyrogloblin を抗原とした家兎およびマウスでの抗体産生について. 1983: 日本内分泌学会雑誌 59(1): 64-71
101. 石井則久、奥田研爾: 5-ボロモデオキシウリジン (BUdR) と蛍光ランプを用いた試験管内 alloreactive T 細胞の除去法. 1983: 免疫実験操作法 X II: 3897-3900
102. 石井則久、永井隆吉、奥田研爾: T 細胞増殖反応における自己 Ia 抗原認識機構. 1983: アレルギー 32(9): 996-998
103. 奥田研爾: 細胞融合法を使用しての遅延型過敏反応の解析. 1983: 日本細菌学雑誌: 38(6): 771-779
104. 相原雄幸、真下順一、松山秀介、奥田研爾: 異なった機能を有する T 細胞と反応するモノクローナル抗体の作成: 1983: 医学のあゆみ: 127(4): 285-287
105. 加藤清、石ヶ坪良明、谷賢治、奥田研爾: マウスを用いた簡便な抗原特異的リンパ球の幼若化反応. 1983: 免疫実験操作法 VIII: 2659-2664
106. 奥田研爾、石井則久: T 細胞による免疫の制御機構. 1983: 厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班ベーチェット病に関する研究: 21-24

107. <著書>奥田研爾:微生物学辞典. 1983:技報堂出版
108. <著書>相原雄幸、奥田研爾:免疫エンジニアリング, B 細胞ハイブリドーマ. 1983:新免疫学叢書, 岩波書店:12:9-24
109. <著書>山田誠一、奥田研爾:免疫グロブリンをめぐる最近の知見, B 細胞の抗原レセプター. 1983:臨床免疫, 科学評論社:15:517-525
110. 相原雄幸、斉藤春和、南陸彦、奥田研爾:ハイブリドーマを使用した遅延型過敏反応の effector cell line. 1982:医学のあゆみ:122(7・8):704-706
111. 奥田研爾、南陸彦:T 細胞ハイブリドーマを用いた抑制性回路の解析. 1982:代謝.19 臨時増刊号「免疫'82」37-46
112. <著書>奥田研爾:免疫実験法(マウスを用いた抗原特異的リンパ球幼若化反応, マウスリンパ球細胞の抗体産生検出法, ヒトリンパ球分離培養法, ヒトの Tリンパ球, Bリンパ球の分離測定法, ハイブリドーマ形成法). 1982:日本組織培養学会, 組織培養の技術, 朝倉書店:130-143
113. 相原雄幸、南陸彦、奥田研爾:抗原特異的可溶性 T 細胞因子による遅延型過敏反応の調節機構. 1982:蛋白質 核酸 酵素:27(10):1281-1290
114. 石井則久、池澤善郎、永井隆吉、奥田研爾:マウス接触過敏症における suppressor cell のまわりの表面の性質について. 1981:日本皮膚科学学会誌:91(2)143-147
115. 松永敬一郎、加藤清、成田雅弘、長岡章平、石ヶ坪良明、干場純、谷賢治、福島孝吉、岩久建夫、奥田研爾、田所一郎:A 群溶連菌免疫後の PQ 時間延長—その遺伝子支配について—. 1981:リウマチ 21(1):16-21
116. 加藤清、長岡章平、成田雅弘、松永敬一郎、干場純、石ヶ坪良明、谷賢治、奥田研爾、石井則久:B10 系マウスの DNA と RNA に対する免疫応答. 1980:医学のあゆみ:114(13):1065-1067
117. 奥田研爾:低分子蛋白抗原およびそれらの抗原決定基に対するマウス免疫応答の遺伝的支配. 1980:蛋白質 核酸 酵素 25(2):113-122
118. <著書>加藤清、松永敬一郎、池澤善郎、奥田研爾:マウスの尾を用いた簡便な表皮細胞の採取法. 1980:免疫実験操作法 IX:2685-2690
119. 奥田研爾:Ia 抗原と免疫応答の遺伝的統御. 1980:感染・炎症・免疫:10(4):31-43
120. <著書>加藤清、石ヶ坪良明、谷賢治、奥田研爾:1979:マウスを用いた簡便な抗原特異的リンパ球の幼若化反応. 免疫実験操作法 VIII:2659-2664
121. 奥田研爾:ricombinant マウスとその応用. 1979:代謝:.16 臨時増刊号「免疫'79」V.免疫学方法論の進歩より 215-224
122. 高橋豊三、鈴木賢一、奥田研爾、田所一郎、佐分利保雄:ワクチニアウイルス感染細胞のリンパ球吸着現象の構造的解析. 1979:医学のあゆみ:111(7):442-444
123. 田所一郎、奥田研爾、関戸幹夫、岡田秀規:Behcet 病患者における alternate pathway の動態について. 1977:横浜市特定研究・難病、特に自己免疫が関係すると思われる疾患の研究:昭和 49 年~51 年度研究業績:10-12
124. 奥田研爾、関戸幹夫、田所一郎:ベーチェット病患者における口腔粘膜抗原に対する検討

- (II) Cell-mediated immunity について. 1977: 横浜市特定研究・難病、特に自己免疫が関係すると思われる疾患の研究: 昭和 49 年～51 年度研究業績: 7-9
125. 奥田研爾、岡田秀規、田所一郎、丁宗鉄、関戸幹夫: 1977: ベーチェット病患者抹消好中球における細胞内 cyclic nucleotides の動態について: 横浜市特定研究・難病、特に自己免疫が関係すると思われる疾患の研究: 昭和 49 年～51 年度研究業績: 18-22
126. 奥田研爾、岡田秀規、田所一郎、丁宗鉄、関戸幹夫: 1975: ベーチェット病患者抹消好中球における細胞内 cyclic nucleotides の動態について: 厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班 昭和 50 年度業績集 100-104
127. 奥田研爾、岩久建夫、高橋豊三、田所一郎、野口義圀、石原和之: Mouse カンディダ症に対する免疫ミサイル療法. 1975: 医学のあゆみ: 93(12): 620-621
128. 田所一郎、奥田研爾、関戸幹夫、岡田秀親: Behcet 病患者における alternate pathway の動態について. 1974: 厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班ベーチェット病の成因と治療、予防に関する研究: 昭和 49 年度研究業績集 127-129
129. 関戸幹夫、奥田研爾、田所一郎: ベーチェット病の免疫遺伝学的検討: 1974: 厚生省特定疾患ベーチェット病調査研究班ベーチェット病の成因と治療、予防に関する研究: 昭和 49 年度研究業績集 195-197
130. 奥田研爾、野口義圀: *C.albicans* と好中球・1.細胞内殺菌現象. 1974: 真菌と真菌症: 15(1): 1-2
131. 奥田研爾、杉本純一、石原和之、野口義圀: *C.albicans* と好中球・免疫貪食現象. 1974: 真菌と真菌症: 15(2): 59-60
132. 田所一郎、奥田研爾: 新しい白血球機能検査法 - NBTtest - について. 1974: Immuno-Advance: 4(4): 39-49
133. 田所一郎、奥田研爾: 好中球の機能異常とその検査法. 1974: モダンメディア別冊: 20(6): 327-335
134. 奥田研爾、田所一郎、野口義圀: サイトカラシン B による好中球内殺菌機構の解析. 1974: 医学のあゆみ: 91(5): 205-207
135. 野波英一郎、伊藤明子、垣内洋二、宮本利策、中島弘、村上通敏、平井義雄、田所一郎、奥田研爾: PS 抗原による尋常性瘡癩の治療経験. 1973: 新薬と臨床: 22(7): 81-86
136. 杉本純一、奥田研爾: Cryoglobulinemia の 1 例. 1973: 臨床免疫 5(2): 99-103
137. 奥田研爾、野口義圀: NBT dye test. 1972: 医学のあゆみ 82(1): 18-19
138. 奥田研爾、奥田恭子、田所一郎: 好中球貪食時における細胞内代謝異常. 1972: 医学のあゆみ: 82(8): 500-505